



かとう きよし
加藤 清
(爽志会)

- 市営住宅の管理について
- 農業振興対策について

質問 市民が快適な生活を行うため、市営住宅管理条例が定まっている。近年シロアリ被害が多発しているがその対策と、負担区分について。

市長 シロアリの駆除、修繕は軽微である場合は入居者が負担する。重大な修繕は市側が行う。建物の種類により被害が多岐にわたっている「入居者しおり」に負担区分を明確にし、入居者へ理解を求めていく。

質問 奥州市総合計画、基本構想に、地域が支え育てる「農業のまち」と明記されている。本市の基幹産業は農業である。市長の目指す「地方の個性が光り輝く自治と協働のまち」を実現するため農業振興は重要課題であるとの観点から、以下4項目について伺う。

- 一、市独自の農業振興策について
- 二、地域農業マスタープラン対策について
- 三、本市農業振興基本計画策定について
- 四、岩手ふるさと、JA江刺両農協との合同事業の設置について



農業振興の拠点として期待される東北最大産直「来夢くん」

市長 独自策として、前沢牛、江刺リンゴ等の販売強化、地域産地作り、新規就農支援事業等、200万円程の事業を行っている。マスタープランについては合意形成された地域より策定を行う。基本計画については農業振興を総合的に推進するため必要であり、関係機関と協議の上、策定に向け取り組んでいく。両JAとの合同事業は、さらなる連携強化を計り、協議機関を設置し、合同事業の具体化に向けた取り組みを進めていく。



えんどう さとし
遠藤 敏
(創政会)

- 成牛市場の再開急げ
- 延命治療と尊厳死にどう向き合うか

質問 成牛市場の閉鎖で子牛を産まない廃用牛が牛舎のスペースをふさいでいる。このままでは子牛の出荷頭数が減少し産地として死活問題となるが。

市長 廃用牛の滞留は非常に大きな問題だ。一日も早く再開に向けた見通しを明らかにするよう県に要望していく。

質問 畦畔草の検査が拒否されている。早急に検査に取り組み安全な草は食べさせるべきだ。

市長 検査して基準値以下となっても、県が市内全域を給与自粛としているので牛に給与する事はできない。

質問 利用自粛の牧草の処分はどのように進んでいるか。

市長 パイプハウスを設置し農家で一時保管している。先頃、県より焼却処分の提案をいただいたので対応を検討している。

質問 長寿社会は医学の進歩の恩恵と言える。しかし高度医療の時代だからこそ自分はどういう最後の迎えたいのか考える事が必要であり、延命治療や尊厳死についても日ごろから家族で話し合うことが大事である。市としてそういった気運の醸成



どうして毎日外国の乾草なんだ？

に取り組むべきでないか。又、自力での生存が難しくなった時、延命措置をしないほしいと言う意思を登録する制度が出来ないか伺う。これは最後の決断を迫られる家族にとっても必要だと思うし、普段家族で話し合うきっかけにもなるのではないかと。死に至る経過や考えは人によって千差万別である。法制化のみで全てスムーズに対応できるか疑問が残る。行政としての具体的対応はむずかしい。